

水環境・モデル・シミュレーション (2-A-15-3～2-A-17-1)

本セッションでは7題の講演予定であったが、1件の講演発表(2-A-15-3)が取り止めとなったため合計6題の講演発表が行われた。発表課題のテーマは非常に多岐に渡っており全体を取りまとめたセッション報告を作成することは困難であると判断した。以下に各講演の内容と質疑について列記する。

課題 2-A-15-4 では、流動促進底泥酸化装置による湖沼浄化について、人工池での実測値とシミュレーションモデルの比較からその有効性を検討する試みが発表された。流動促進装置によってアオコを消滅させることを目的とした人工池での実験で、参照池よりも実験池でアオコが発生したと報告された。実験計画自体に大きな問題点を抱えていると推察された。河川における水質汚濁について制御理論の観点を取り入れたシミュレーションモデルに関する講演があった(2-A-16-1)。貯水池放流水の密度変化を予測することを目的として実用性の高い簡易な密度予測式を求めるために実施された室内実験についての発表があった(2-A-16-2)。実際の懸濁水ではなく塩水を用いて実験は行われた。現場との差を埋める努力が求められる。講演課題2-A-16-3では、生産者栽培管理原簿に基づく詳細な農作業情報データを用いて農薬の流出解析モデルが評価され、さらに大規模流域への適用性について考察した研究発表が行われた。一貫性のある意欲的な研究であった。汚濁負荷流出解析モデルの集中型モデルから分布型モデルへの改良に関する発表がなされた(2-A-16-4)。改良分布型モデルはリンや窒素に適用できそうであった。セッション最後の講演は、海域における残留性有機汚染物質の水生生物への濃縮についてのモデル化と予測に関するものであった(2-A-17-1)。種固有の速度定数が不明でも、簡便に生物体への濃縮負荷量を予測できると示唆された。

(国立環境研究所 今井 章雄)